

CHALLENGE NEWS

チャレンジニュース!!

知的障害者入所更生施設

多機能型福祉サービス事業所



チャレンジめいとくの里



サポートセンター めいと

一発行
社会福祉法人 明徳会
〒861-5503
熊本市明徳町707-1
TEL(096)215-9101
FAX(096)245-2344

その間、短期入所を臨時休業し、通所と入所の活動を完全に分離したり、一日に六回の検温、オゾン水散布、安定化二酸化塩素消毒、手すり・取手のアルコール消毒と対応しました。中でも一番、力を入れたのは手洗いでした。六月下旬に熊本市、合志市で患者が発生した頃から、冬までには習慣化しようとしたが、なかなか難しく、そこで登場したのが中島支援員作製の手洗い練習でした。

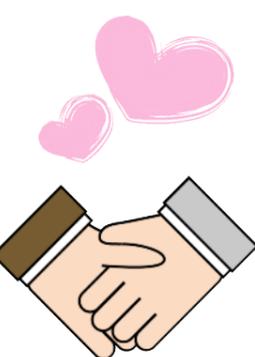
やど取束?・終息??
当施設にも、十二月三日にA型インフルエンザ第一号患者が発生するやいなや、帰宅療養、居室分離の対応をしたにもかかわらず、あつという間に次々に発熱者が出ました。十四日十七時の緊急対策解除までにご利用者様四名の陽性患者を発生させてしまいました。



手洗い練習機
「菌さん発見機」

一応、今回の集団感染は、擬陰性の方を含めてご家族の皆様、自宅療養協力、そして帰省中の予防等のご協力のおかげで収束しましたが、まだまだインフルエンザは終息（流感等が絶えてなくなる）こととしたわけではありません。施設として予防体制は継続していきたくと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

体温計を正しく使って健康管理を...
一日に六回の検温で不思議なことに気づきました。当施設では、毎朝の検温するために十本ほどの体温計を使用していました。光を額に当てて瞬時に測定するものやデジタル三分計と壊れるたびに補充していましたが、数種類を使っていました。体温計は、計量法の対象で検定して同じ数値がでると思っていたのです。
耳式体温計は、鼓膜とその周辺から出ている赤外線センサーでキャッチして瞬時に測定し、電子体温計は、温度によって電気抵抗が変化する温度センサーを利用して測定します。電子体温計の中でも「予測検温と実測検温」ができるタイプと「実測検温」のみガラス製体温計は、熱膨張する水銀の特性を利用して測定し、平衡温になるまでに十分程度かかるという各々の特性と正しい計り方があったのです。今回の集中検温では、0.5℃程度の誤差が認められました。「体温計は機種によって機能や測定方法が異なり、



測定結果にも多少の違いがあります。微熱が続いていると思っていながら実は予測検温の体温計に買い替えたことが原因だったという相談もありました。体温が低めだと思いついて入る人の中には、平衡温に至る前に検温を終えてしまっている人もいます。電子体温計では一般に三〜五分ほどで実測終了の電子音が鳴りますが、平衡温に至るには電子音が鳴ってもやめずに十分ほど測定し続けることが必要です。自宅の体温計の使い方を再確認するとともに、日頃から同じ体温計で定期的に検温して自分の体温を知っておくといいたいです。古屋消費者センター）
耳式体温計は、瞬時に測定できますが、測定方法等で誤差が大きいのと言えます。毎朝、私は握手しながら挨拶と健康観察をしています。そのような意味で便利な体温計と言えるでしょう。

新型インフルエンザ めいとくの里でも猛威をふるった。

施設長 松村 忠彦

蛍光塗料顔料入りの「手洗い」上「手洗い」を手に塗って洗い、ブラックライトを当てると洗い残しが青白く光るという仕組みですが効果的でした。

ゴミ袋販売

十月から熊本市ではゴミ袋が有料になりました。ゴミ袋有料に伴い、チャレンジめいとくの里でもゴミ袋の販売を行っています。お気軽にお立ち寄りください。



【販売時間】
月～土曜日の九時～十七時
【販売場所】
チャレンジめいとくの里 事務室
（施設屋内に入った右側にあります）
※当施設の都合により、日曜日は販売していません。申し訳ありません。

ボランティア募集

明徳会では様々な場面でボランティアを募集しています。
●活動ボランティア
日中活動をサポートしていただける方
●フリーバーボランティア
ディスコやイベントなどとにかくご利用者様と一緒に盛り上がりたてたい方、その他ボランティア大歓迎です。興味のある方、参加してみたい方は左記の連絡先まで気軽にお問い合わせください。

TEL:096-215-9101
MAIL:meitokunosato@yahoo.co.jp
担当:今富、溝下



ありがとうございました!



【寄贈】ご家族様より
ジューズ 将棋板 囲碁板 米入れ
みかん お菓子 トイレレットペーパー
【ボランティア】
山口 雅也さん(熊本大学)

ありがとうございます

1月行事予定

1月 4日(月)	各グループ新年会
1月 7日(木)	あおぞらG外出 (日本一の石段)
1月12日(火)	成人お祝い会
1月14日(木)	きらりG外出(初詣)
1月21日(木)	わかばG外出(ウエッキー)
1月28日(木)	ひまわりG外出(三角体験塾)

インフルエンザにご注意ください!

12月になり、ますます冷え込んできました。世間では新型インフルエンザが流行する中、施設内でも職員・ご利用者様ともにインフルエンザに罹患された方がいらっしゃいました。Aソ連型と同じ型であるA型インフルエンザの一種なので、症状も冬に流行るインフルエンザと同じです。症状から季節性インフルエンザと区別することはできません。

社会福祉法人明徳会でもインフルエンザに対して色々な対策を実施しています。

【入所ご利用者様】①入院療養を手配する。②ご家族で可能な場合は、家庭療養をお願いする。③短期入所、サポートセンターめいとくを休業閉鎖(原則4日間)します。④ご家族に患者が発生した場合、帰省中止としますので、早めに施設に連絡してください。

【通所ご利用者様】発症された場合は、ご利用者の施設利用状況等を検討の上、適用を判断し、その後に各家庭に連絡しますので、できるだけ速やかに施設に連絡してください。

【短期入所、日中一時ご利用者様】ご予約いただいている場合も、緊急に休業することがありますので、備えをお願いいたします。緊急連絡は、可能な限り早めにと考えていますが、当日になる場合があります。

ご迷惑をお掛けすることがあるかと思いますが、今後も皆様のご協力をお願いいたします。

編集後記

◇あつという間に十二月になり、もう今年も終わってしまいます。十二月になるといつも「一年って早いなあ」と思うと同時に一年を振り返り、いつも「あつ...やり残した!」と反省します...。来年は悔いがない一年を過ごしたいです! (藤原)
◇激動の一年が幕を閉じようとしています。おかげで最近ウェストが3センチ痩せました。それでも、メタボにビクビクする新年が来そうです。来年も歩きます! (田尻佳)
◇今年、残すと数日となり、私にとってこの一年は、バタバタと過ぎていったように思います。学生生活から社会人と...。慣れる日は来るのでしょうか。(溝下)

インフルエンザに負けるな! チャレンジングフェス 2009



「猛威をふるうインフルエンザ」の秋、各機関・事業者がイベントを中止せざるを得ない状況の中、毎年行ってきた大イベント「めいとくフェスタ」も十月初めに中止を決定しました。ご利用者の皆様はもちろん職員も残念な気持ちでいっぱいでした。担当者は半年前から準備していましたが…。今後のイベント実施もインフルエンザの蔓延防止のため中止していくのか? そのようなことも想像してしまう状況でした。

そのような中、「いまは逆境の時」何らかの形でご利用者様に楽しんで頂けるイベントを職員一丸となつて作ろうじゃないか! というポジティブ発想で、内部イベントを企画しました。

その企画が「インフルエンザに負けない救済企画、チャレンジングフェス2009」です。この企画は全職員や音楽クラブなどのご利用者様による余興発表で構成されている内容で、昼食もバイキングという豪華設定です。職員は部署・役職関係なく、厳選なる抽選によりグループ分けをおこない、歌・ダンス・演奏・劇とお題が設定され、グループに構成を練ってもらい趣向を凝らし作り上げます。フェスタの中止が決

まり一か月しか準備期間がありませんでしたが、どうか時間を捻出し仕事終わりなどに、どのグループも練習を取り組まれていました。

当日は…大爆笑。各グループ、「全力で自分を捨て、汚れる職員あり」「役者ぶりを発揮される職員あり」「皆さん素晴らしいパフォーマンスとして活躍して頂き、ご利用者様にも大好評でした。もちろん「食」に関しては、言うまでもありません。皆さんが好きなメニューを揃えておきましたので。

この内部イベント後に実施したアンケートでは、「職種を超えて集まりひとつの物を作ることで職場チームワークの強化になった」と「共に楽しみ、共に喜ぶ。施設イベントの原点ではないでしょうか。」などの感想をいただきました。これからのめいとくの里は逆境をバネにポジティブ発想で前進していくと感じる事の出来たイベントになりました。

追記、企画担当者より
このイベントに関わった全ての皆さんに「ありがとう」を贈ります。
めいとくフェスタ実行委員長
中田 安俊

職員奮闘記 50/50の奮闘 生活支援員 中島 裕輔



え? 奮闘...? 「中島さん、チャレンジングフェスの『職員奮闘記』の欄書いて下さい!」 「えー? あーはい、私でいいんですか?」 そんな感じで広報担当の方から『職員奮闘記』の原稿を依頼されて、それに一番奮闘しているさらにグループ中島です、こんにちは。

ふんとう【奮闘】: 力をふるって懸命に戦うこと。と、国語辞書にあります。が、困りました…。というのも、他の職員の方々の奮闘ぶりを見て「オレ、奮闘してるぜ!」と胸を張って主張できるほど日々奮闘している気がしないからです。だからと言って仕事をサボっているわけではないです…多分笑)

まあ、そんなことばかり言っても始まらないので、まずは私がいとくの里に来る前の話をさせて頂きます。

は、大学生の頃「知的障がいのある方と遊園地に行く!」というボランティアに参加したことがきっかけです。当時、ほとんど知的障がいのある方と接したことがなかった私はかなりドキドキ。ヘッドギアを付けている方、車椅子に乗っている方、突然大声をあげる方…どう接していいかわからず、遊園地に向かう車中で私の脳内では「帰りたい!」が何度もリピートしていました。

しかし、遊園地で運命的な出来事がありました。あつたわけはありませんが、緊張はすぐに解けて自然体で皆さんと楽しんでいる自分に気づきました。きっかけは本当にそれだけです。この分野なら自分は楽しく仕事ができそうな予感がして、卒業後は市内にある通所施設に勤めさせて頂きました。

予感的中。同僚や上司、ご利用者様と毎日楽しくドタバタ珍道中…。いや、ほのぼののまつりライフ(笑)もちろん、支援が上手いかず悔しい思いをしたこともありましたが、充実した日々を過ごさせて頂きました。

そんな中めいとくの里へと私を導いた出来事…それは申し訳ありませんが公的な書面に書く事はできません。ただ、その出来事がある「家族」の言葉をスローガンに掲げるめいとくの里に魅かれたことがきっかけであることだけお伝えしておきます。

私は支援員として、とても未熟です。さらにグループの皆さんをはじめ、ご利用者様に満足して頂ける活動・支援もできず、利用者自治の仕事も十分にできず、職員奮闘記すらマジメに書けず…。でも、たとえ相手も他人でも「家族」のように寄り添える支援員、いや、人でありたいと思っています。

もし私の日々の働きを評価して頂けるとしたら、それはご利用者様・職員の方々のお陰です。奮闘記を書きながら思いましたが、私にとって「奮闘」とは「ご利用者様が50%くらい頑張つて、私が50%くらい頑張つて、端から見て100%になるような支援ではないかな、と。逆を言えば、私が補ってもらっているのでしょうか。良い和紙を作りたい」「めいとくの里で楽しく過ごしたい」と強く願い、日々奮闘しているのは、ご利用者様自身なのであります。

そんな『職員奮闘記』を執筆するに値しない私ですが、あくまで人として「新しい家族」に寄り添って行こうと、この想いだけは本心の100%だと申し上げさせて頂きます。

あ、余談ですが、めいとくの里職員採用試験の合格通知を頂いたちょうど一年後の日付は、私と妻の入籍記念日となりました。まさにディスティニー☆

「第三十回 希望荘作品展」に、ご利用者様が一生懸命に織った「さをり」を生かした製品(ペンケース・キーホルダー・コースター)や和紙等を出品しました。他の施設や、個人の作品もたくさん出品されていて、どれもすばらしい出来の中、当施設が団体の部で最優秀賞を頂き、表彰式に二人のご利用者様と共に出席しました。表彰状と楯はご利用者様が受け取り、立派に挨拶もされました。今後、多くの方々に日中活動の一つとして知って頂き、「メイクラフト」としていろいろな作品を作っていきたいと思っています。(上川)

最優秀賞を頂きました!



最優秀賞受賞作品とともに
挨拶する姿もきまっていますね

予感的中
私が知的障がいの分野に興味を持ったの

「かっこいい★」
これからバーベキュー

結婚式に行きました!

希望荘 作品展



最優秀賞受賞作品とともに